

平成31年度 学校評価自己評価及び学校関係者評価（外部評価）表

東広島市立高美が丘中学校

教育目標		知・徳・体の調和がとれ、思いやりと行動力のある生徒の育成				評価		4・・・目標を上回って達成 3・・・ほぼ目標どおりに達成 2・・・目標をやや下回る 1・・・目標をかなり下回る	
経営理念		<ミッション・ビジョン> グローバル化する社会を生き抜いていく人間を育成し、生徒・保護者・地域の方々に信頼される学校の創造 ～学びたい 学ばせたい やりがいのある学校～							
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	評価		短期経営目標の達成状況	
						7月	1月		
学習指導	1	○グローバル化する社会で必要となる行動力を習得した生徒の育成 (主体性・表現力) 「課題発見・解決学習」を手立てとして	自分から進んで「学び」に向かう生徒の育成	・各授業で、主体的な学びを推進する。 ・家庭での自主学習を計画的に実行させる。	・生徒学習意識調査「授業では、進んで学習している。」肯定的評価90%以上 ・自主学習時間1日1時間以上90% ・課題提出100% ・学習面談年間2回以上	3	4	12月の生徒アンケート調査より、「授業では、進んで学習している。」と答えた生徒91・9%、「私は、宿題の提出をきちんとしている。」と答えた生徒91.3%であった。また、生徒の家庭での自主学習の平均時間は1・2時間であった。学習面談については、全学年とも計画的に実施できた。	
			自分から課題を発見し解決できる生徒の育成	・各授業で、課題を発見し解決できる取組を行う。	・生徒学習意識調査「授業では、学習課題を見つけ、解決している。」肯定的評価90%以上	3	3	12月の生徒アンケート調査より、「授業では、学習課題を見つけ、解決している。」と答えた生徒85.5%であった。	
			自分の「学び」や意見を表現できる生徒の育成	・各授業で、意見を表現できる学習等の取組を行う。	・生徒学習意識調査「授業では、自分の考えを発表している。」肯定的評価90%以上	2	3	12月の生徒アンケートより、「授業において自分の考えを発表しています。」と答えた生徒が77.3%であった。3年生の全国学力・学習状況調査では、全教科市平均を10ポイント程度上回った。	
			自分で積極的に情報を収集・選択・活用できる生徒の育成	・図書室またはPC教室を利用した調べ学習、まとめ学習等の取組を一人一回以上行う。	・生徒学習意識調査「授業では、調べたり、まとめたりしている」肯定的評価90%以上	3	3	12月の生徒アンケートより、「授業において調べたりまとめたりしています。」項目 肯定的評価85.5%であった。12月の教職員アンケートより、「図書室やPC教室を活用し、情報収集・選択・活用を意識して指導している。」肯定的評価78.6%であった。総合的な学習の時間では、パソコン室・図書室を全学年活用した。	
生徒指導	2	○グローバル化する社会で必要となる思いやりを持った生徒の育成 (社会性・協調性) 「寄り添い・かかわりきる生徒指導」を手立てとして	「生活三訓」を意識して生活できる生徒の育成	・生徒会活動・部活動を軸とした自主的な取組を推進する。	・生徒生活意識調査「私は、生活三訓を意識して行動している。」肯定的評価90%以上	4	4	12月の生徒アンケート調査より、生徒の答えは「挨拶をきちんとしています。」99.4%(1.7%アップ)、「時間をきちんと守って行動しています。」97.7%(0.6%アップ)、「整理整頓をきちんとしています。」94.8%(0.6%アップ)であった。	
			自分の役割を意識して行動できる生徒の育成	・委員会活動や部活動の充実を図り、行事や大会での成功体験を基に生徒の自主性を育成する。	・生徒生活意識調査「私は、自分の役割を意識して行動している。」肯定的評価90%以上	4	4	12月の生徒アンケート調査より、「自分の役割を意識して行動しています」と答えた生徒97.1% (7月の生徒アンケート調査結果より0.6%アップ) であった。	
			自他ともに大切にできる生徒の育成	・学校生活の中で長所を見つけ伝え合う場を設ける。 ・生徒の関わり合いの場を授業・部活・委員会活動の中で意識的に設定する。	・生徒生活意識調査「私は、自他を大切にし、思いやりを持って行動している。」肯定的評価90%以上	4	4	12月の生徒アンケート調査より、「自分や周りの人々を大切に、思いやりを持って行動している」と答えた生徒97.1% (1.2ポイントアップ) であった。	
信頼される学校	3	○『学びたい、学ばせたい、やりがいのある』学校づくり (学校組織の活性化、小学校・地域との連携・協働) 「地域づくりの要となる学校」の推進を手立てとして	組織的な学校運営体制の確立と働き方改革を推進する学校づくり	・各主任が課題や情報を共有し、有機的・機能的な取組を推進する。 ・部活動指導方針の徹底、業務改善の推進を図る。	・教職員意識調査「高美中の教職員は、各種取組において組織的に動いている」100%、「子供と向き合う時間が確保されている」80%以上 ・入退校記録「時間外勤務が月80時間を超える教員」0人	2	2	12月の教職員意識調査より「高美中の教職員は、各種取組において組織的に動いている」と答えた教員が100%(5.9ポイントアップ)、「子供と向き合う時間が確保されている」と答えた教員が87.5%(6.6ポイントアップ)であった。また、入退校記録において「時間外勤務が月80時間を超える教員」は、一月でも超えた教員が12/16名であった。	
			地域との連携・協働を積極的に推進する学校づくり	・生徒・教職員が地域行事や地域貢献活動に参加する。 ・地域から学校行事等への参加に関わる条件整備・調整を行う。	・生徒・保護者・教職員意識調査「私は、積極的に地域行事や地域貢献活動に参加した。」「学校は、積極的に地域と連携・協働している。」肯定的評価70%以上	4	3	12月のアンケート調査より、「積極的に地域貢献活動に参加した」と答えた生徒79.7%(4.4ポイントアップ)、保護者63.1%(2.9ポイントアップ)、教職員81.3%(1.3ポイントアップ)であった。また「学校は積極的に地域と連携・協働している」と答えた教職員は100%であった。	
			「学校緑化活動」を発展・継続させる学校づくり	・学校緑化活動の年間を見通し、計画的に推進する。	・生徒・保護者・教職員意識調査「私は、積極的に学校緑化活動に参加した。」「学校は、積極的に学校緑化活動を行っている。」肯定的評価90%以上	4	4	12月のアンケート調査より、「積極的に学校緑化活動に参加した・学校緑化活動を行っている」と答えた生徒90.7%(0.5ポイントアップ)、保護者98.8%(0.6ポイントアップ)、教職員100%であった。	
			小・中9年間の学びと育ちを充実させる学校づくり	・小6と中1のつながりを意識した小中連携を行う。	・小・中学校間連携年間10回以上	4	4	児童・生徒の交流は、6月に職場体験学習、7月に教育講演会、オープンスクール、8月に夏祭り、教職員合同研修会、9月に中学校体育大会、10月に教育講演会、11月に中学校文化祭、1月に第2回教職員合同研修会、2月に入学説明会等の小中間連携を実施した。合計10回 その他、巡視活動や挨拶運動は合同で計14回実施。	

改善の方向性

(学習指導)	○主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善と工夫 ○各種検定への受検（3年生） ○学力補充学習の充実と学習習慣づくりの支援 ○学習に対する面談を定期的に行い意欲喚起 ○図書環境の充実と読書活動の充実	学校関係者評価（外部評価） 目標達成度は概ね高くも、細事に至ってはまだ取組を改善・発展していく必要性のある領域が見られる。今後とも油断せず、取組に携わる学校・保護者・地域が一体となって高美が丘中学校の教育活動を鋭意推進していただきたい。
(生徒指導)	○いじめアンケートの計画的実施等による未然防止 ○生徒委員会等の取組を通じた「生活三訓」の日常的実践 ○不登校生徒の状況把握、情報共有、保護者連携及び関係機関等との連携・充実 ○生徒へ寄り添い、かかわりきる指導の徹底 ○生徒指導の三機能を活かした授業スタイルの確立	
(信頼される学校)	○組織的な学校運営体制の確立、働き方改革の推進（子供と向き合う時間の確保、長時間勤務の縮減） ○「学校関係緑化活動」を通じた保護者、地域との連携のさらなる充実 ○学校だよりの配布及びHPの更新 ○積極的な地域行事への参加 ○小学校と連携した挨拶運動、授業交流、合同研修会など積極的な交流活動の実施	